

令和4年度

学生によるオレンジリボン運動

新潟青陵大学 実施報告書



実施主体 看護学部 助産師課程選択学生(3年生)14名

実施内容 令和4年10月29、30日の大学祭にて啓発活動

①事前取り組んだ内容

授業等において児童福祉や児童虐待、子育てに関する現状について学習している。今回は助産師課程の実習の一環として、啓発活動を企画して取り組んだ。

近年の児童虐待の傾向や背景、必要とされている支援などについて学習した。特に、助産師を志すものとして妊娠中から子育て期における母子と家族の実態と支援や、自分たちの地域で行われている活動について調べた。児童虐待についての理解を深めた上で、オレンジリボン運動を通して、来場者に今の児童虐待の現状を知ってもらい、虐待への偏見がなくなることや自分たちにできることがあると知ってもらうことを目的としてパネル作成を行った。

②実施機関に取り組んだ具体的内容

大学祭では、教室内でパネル展示と動画による説明、児童虐待防止全国ネットワークの公式ポスターの掲示、アンケートの実施を行った。パネルの内容は、児童虐待の現状、虐待の種類、しつけと虐待の違い、虐待の背景、地域で行われている母子への支援、相談窓口の紹介、本学で学ぶことができる職種が虐待の予防や対策にどうかかわっているか、オレンジリボン運動の紹介、来場者への願い等とした。

また、虐待の種類に関する動画視聴コーナーを設け、具体的なイメージを持ってもらえるよう工夫した。さらに、当日来場できなかった方にも伝えられるように、後日動画配信を行った。

③オレンジリボン運動を終えて…

オレンジリボン運動を通して、児童虐待の実態を学び自分たちが今できることは何か、将来自分たちが親になった時、どのように子どもたちに関わるべきかを考える機会となった。

また、児童虐待予防のために妊娠期から母親やその家族に関わる助産師の役割の重要性を再確認でき、助産師を目指す学生として学びとなる活動となった。来場者からは、「虐待に対して偏見を持たないことが大切だと感じた」や「背景を考えていくことが重要だとわかった」等の感想を頂き、活動の成果を感じる事ができた。

最後に、児童虐待やオレンジリボンについて多くの人に知ってもらうきっかけとなるオレンジリボン運動を今後も継続していきたい。

